

令和元年度 城西大学附属城西中学校 帰国生入学試験問題

国語

《注意》

- (1) 問題は二七まであります。
- (2) 解答はすべて解答用紙に書いてください。
- (3) 「、」や「。」も一字とします。
- (4) 問題用紙、解答用紙ともに回収します。

【一】 次のそれぞれの文の（ ）部にあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。（同じ記号を二度選んではいけません。）

- ① 夏の暑い日に（ ） お茶を飲んで体温を下げる。
- ② 先生にほめられたので（ ） 気持ちになった。
- ③ 一人で行動することは決して（ ） ことではない。
- ④ 彼は目が（ ） ので遠くのものもはっきりと見える。

【選択肢】

ア 良い	イ 悪い	ウ うれしい	エ 赤い	オ 寒い	カ 冷たい	キ さみしい
------	------	--------	------	------	-------	--------

【二】 次のそれぞれの文の傍線部の主語を答えなさい。

- ① 机の上にはペンが並べて置いてある。
- ② 僕はいつもの通り元気ですが、弟はかぜをひいています。
- ③ 明日は僕が待ちに待った遠足だ。
- ④ 君は僕がさっき話したことを忘れてしまったのか。

【三】 次のそれぞれの（ ）部に生きものの名前を入れて、意味の通ることわざを完成させなさい。

- ① （ ）に小判：いくら値打ちのあるものでも、価値のわからない者に与えるのはむだであること。
- ② （ ）の一声：多くの人の議論や意見をおさえつける、有力者の一言。
- ③ 虎の威を借る（ ）：他人の権威を利用していばること、また、その人。

四 次のそれぞれの文は、文法的に間違いがあります。正しい文に改めなさい。

①私の夢は、父の仕事を継つぐようと思います。 ②電車内での携帯電話を使うことは迷惑めいわくだ。

③彼は几帳面きちょうめんなので、身の回りの物がよく整理している。

五 次のそれぞれの文の（ ）部の言葉を敬語表現に改めなさい。

①このお菓子はよく冷やして（食べてください）。

②先生はどうやって（来たのですか）。

③私もすぐに（行きます）。

六 次のそれぞれの文を意味の通る文章に並べかえ、その順を記号で答えなさい。

①

ア これがあるのだからやめられないのだと思った。

イ ふきとばされそうなほど風も強い。

ウ 外に出るとこごえるような寒さである。

エ 初めはつらかったが、体が温まるにつれて苦しさは気持ち良さに変わっていった。

オ しかし、それらをものともせずには私は走り出した。

②

ア もう一つは砂場でトンネルを作ることだ。

イ 太郎にはお気に入りの遊びが二つあった。

ウ いずれにしても一人でやる遊びが好きだった。

エ 一人で遊ぶよりみんなと遊ぶことの楽しさを知ったのだった。

オ 一つはロボットのおもちゃを戦わせること。

カ だが、少しずつ友達と遊ぶことも楽しく感じるようになってきた。

⑦ 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「ぼく【中略】より後では『准くん』」と「小野さん【中略】より後では『わたし』」は共に作家「月森和」のファンである。「月森和」は別の名前でも本を書いていることを知った二人は、彼の作品に共通する登場人物名をヒントに推理し、「笹山有紀」という答えにたどり着く。本人に会ってみたいと思った二人は高速バスに乗り「笹山有紀」のサイン会に足を運ぶ。

「絵本を買ってくれてありがとう。気に入ってもらえるといいんだけど。」

おっとりとした、穏やかな（ア）クチヨウだった。

「あ、あの……」

ぼくは勇気をふりしぼって話しかけた。

「ぼく、ぼくたち、バスに乗ってきたんです。高速バスに乗って、ずっと長いこと乗って、ここまで来たんす……。」

「ありがとう。うれしいなあ。」

「あの……。あなたは本当は月森和ですよ。ミステリー作家の月森和ですよ。」

①え、どういうこと？月森和って、有名な作家さんよね。」

首をかしげ、きょとんとした顔でぼくたちを見た。

「わたしは、そんなすごい作家さんとは違うわよ。ただの絵本作家なのよ。ようやく三冊目の本を出したばかりなの。そうねえ、まだかけだしの絵本作家かなあ。」

「で、でもぼくたち調べたんです。『海野シリーズ』とか『泣き虫探偵シリーズ』とか一生懸命に読み返して調べたんです。月森和は、別名義を使つてまったく違う本を書いていたんです。そして、その別名義が笹山有紀なんです。つまり、あなたなんです……。」

「まいったわねえ。あなたたち誤解しているわよ。わたしは月森和じゃないの。」

「じゃ、じゃあ……。」

小野さんが声をふるわせながらいった。

「本当に違うんですか。本当に月森和じゃないんですか？」

「ごめんなさいね。悪いけど。」

まさか、こんなことって……。

②ぼくたちはことばをなくし、その場に立ちつくしていた。

机の向こうでは、笹山有紀さんが（イ）こまり切った顔でぼくたちをじつと見ていた。

【中略】

「良かった……。ここにいたのね。」

背中の方からいきなり声が聞こえた。

聞き（ウ）おぼえのある声にふりかえると、そこには笹山有紀さんが「★」をはずませて立っていた。

「あちこちさがしたのよ。」

「え？」

「とにかく、わたしについてきてくれない？ やつとサイン会も終わったし、何かごちそうするから。」

そういうと笹山さんは、わたしと准くんを背中を押すようにして歩きだした。

さからうわけにもいかず、わたしたちはわけがわからないまま彼女についていった。

「このビルにはね、うちの旦那のお気に入りのお店があるの……。③美土里っていう店なんだけど、知らないかなあ？」
わたしたちが笹山さんに連れていかれたのは、地下一階にあるお店だった。

どこことなく古びた店（エ）がまえで、『喫茶美土里』という小さな（オ）カンバンがかかっていた。

お店に入るとすぐだった。

奥の席に座っていた男の人が立ちあがり、笹山さんに向かって手を振った。

背が高くてやせていて、でもどこか飄々とした感じの人だった。

「④お待たせ。やつと見つけたのよ。」

笹山さんはわたしたちの肩に手をかけ、男の人に向かって嬉しそうにいった。

そのとき、わたしはようやく思い出した。

美土里という店。それは『海野シリーズ』に出てくるあの喫茶店と同じ名前だった。

これってまさか……。

考えたことを口にする前に、笹山さんが男の人にさらに続けていった。

「おどろいたわ。まさか、あなたの別名義をつきとめて本当に会いに来るファンがいるなんてね。しかも、小学生だなんて。」
男の人はおおげさに肩をすくめている。

⑤准くんがようやく気がついたのか、あわてて口をひらいた。

「あ、あの？ じゃあ、まさか……。」

「さつきは本当のこといえなくてごめんなさいね。そうなの。彼が、月森和なの。」
わたしも准くんも、テーブルの前で思わず立ちどまっていた。

まさかそんな、この人が……。

「とにかく座りましょう。」

笹山さんに促^{うなが}されて、わたしたちはテーブルについた。

⑥頭の中はすっかり混乱していた。

「で、でも、笹山有紀というのは、月森和の別名義じゃなかったんじゃないか……。」
いきなり准くんがいった。

准くんもわたしといっしょで、まだ考えの整理がつかないようだった。

「うん。まあ、ちよつと複雑なんだけどね。」

男の人が、ぼさぼさ頭を手でかきながらいった。

「笹山有紀というのは、ぼくと彼女の共同のペンネームなんだ。だからつまり、月森和の別名義ってことにもなるんだよね。」

「じゃ、じゃあこの絵本って……？」

わたしは手にしていた紙袋を指さした。中にはさつき本屋で買った絵本『猫の住む国』が入っていた。

問一 ー部(ア) (オ)を漢字に直しなさい。

問二 ー①『『え、どうということ？月森和つて、有名な作家さんよね。』首をかしげ、きょんとした顔でぼくたちを見た』とありますが、この時「笹山さん」は実はどのように感じていましたか。それが述べられている一文を本文中から探し、抜き出して答えなさい。

問三 ー②「ぼくたちはことばをなくし、その場に立ちつくしていた」とありますが、この時の「ぼくたち」の状態を表す表現としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 堂どうに入る イ 身を粉こなにする ウ 路頭ろとうにまよう エ 途方とほうに暮れる

問四 空欄部★にあてはまる言葉を、漢字一文字で答えなさい。

問五 ー③「美土里っていう店なんだけど、知らないかなあ？」とありますが、笹山さんが初対面の二人に対してこのようにたずねた理由を三十字程度で説明しなさい。

問六 ー④「お待たせ。やっと見つけたのよ」とありますが、何を見つけたのですか。次のア～エの中からふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「美土里」という名前の喫茶店 イ 月森和の正体 ウ 准くと小野さん エ 高速バスの乗り場

問七 ー⑤「准くんがようやく気がついたのか、あわてて口をひらいた」とありますが、どのようなことに気がついたのですか。次のア～エの中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分たちのすいりが完全なまちがいではなかったこと。
イ 世の中に「月森和」という同姓同名の人が二人いること。
ウ 笹森さんが「本当のこと」を言いたくない気持ちだったこと。
エ 笹山さんと月森和が「ぼくたち」に心を開きはじめたこと。

問八 ー⑥「頭の中はすっかり混乱していた」とありますが、そのような状態になった理由を次のようにまとめるとき、それぞれの空らん部に当てはまる名前の組み合わせとしてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

・ぼくたちは（Ⅰ）という人物を（Ⅱ）という一人のミステリー作家の別名義だと信じ込んでいたが、目の前の（Ⅲ）という女性から、同席している人を（Ⅳ）だと紹介されたため。

- | | | | | |
|---|--------|--------|--------|--------|
| ア | Ⅰ 月森和 | Ⅱ 笹山有紀 | Ⅲ 月森和 | Ⅳ 笹山有紀 |
| イ | Ⅰ 笹山有紀 | Ⅱ 月森和 | Ⅲ 月森和 | Ⅳ 笹山有紀 |
| ウ | Ⅰ 月森和 | Ⅱ 笹山有紀 | Ⅲ 笹山有紀 | Ⅳ 月森和 |
| エ | Ⅰ 笹山有紀 | Ⅱ 月森和 | Ⅲ 笹山有紀 | Ⅳ 月森和 |

問九 本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ぼくたち」は月森和の正体を突き止めるために、入念な調査の上、近場の書店で行われたサイン会に向かった。
- イ 『海野シリーズ』や『泣き虫探偵シリーズ』は、笹山さんと「喫茶美土里」にいた男性との二人によって書かれたものである。
- ウ 「男の人」はあまり話をしたくはないといった様子で、「ぼくたち」と笹山さんとの会話の中に混じっていた。
- エ 本屋での説明のため、笹山さんから喫茶店に誘われて話を聞いた後も、「ぼく」はその内容をすぐには理解できなかった。